教員養成教育認定（JASTE）

日本型教員養成教育アクレディテーション・システムの開発研究
第二期評価結果における教員養成機関の優れた取組について

１．岡山大学教育学部

（１）構造化された教職課程のカリキュラム編成

実習科目を中核として構造化された「教員養成コア・カリキュラム」が編成されている。特に、教育実習は、１年次の附属校園での観察実習から 4 年次の公立学校での長期分散型実習である「教職実践インターンシップ」まで、積み上げ方式の実習が必修化され、継続的・系統的な実習プログラムが実施されている。また、「教科構成学開発事業」などの共同研究や FD 研修会などを通して、各授業科目の教員養成における位置づけや役割が見直され、改善のための努力が組織的に行われている。

（２）学生の実態に関する調査の実施とその活用

各種委員会において、学生の実態に関する調査が適宜実施され、その分析結果は、教授会や FD 研修会等で詳しく教員に周知され、学部や講座・コースの運営に有効に活かされている。例えば、入試については、入学後の学生の実態や教員就職率などの調査をもとに毎年検証し、改善するための体制がとられている。また、教職へのキャリア・サポートにおいては、毎年、進路希望調査によって教職希望の学生の状況が把握され、それをもとに、各教員が学生の教職志望の維持・上昇に向けた取り組みを行っている。

（３）教員の意識の高さと学生サポート体制の充実

所属教員（附属校園教員を含む）の高い意識のもと理念が共有され、組織的な研究や調査に基づく恒常的な改善が図られ、それが、学生の教職へのキャリア・サポートの充実につながっている。教師として求められる「教育実践力」を「４つの力」（学習指導力、生徒指導力、コーディネート力、マネジメント力）としてわかりやすく端的に示し、これを軸に、課程・コースごとに目指すべき教師像とその具体的内容について所属教員の共通理解が図られているとともに、学生においても 4 年間を通じて学びの自己評価の観点として機能し、「教職実践ポートフォリオ」を介して、指導教員との相互確認の仕組みが整えられている。

岡山大学教育学部評価報告書
（http://www.u-gakugei.ac.jp/~jastepro/html/project/pdf/2015/rep-okayama.pdf）
岡山大学理学部自己分析書
（http://www.u-gakugei.ac.jp/~jastepro/html/project/pdf/2015/ana-okayama.pdf）

２．中央大学文学部

（１）全学的組織による教職課程運営と文学部の積極的関わり

中央大学文学部の教員養成教育は、全学部の学部長、各学部からの選出委員、文学部教育学専攻及び心理学専攻の教員らをメンバーとする「教育職員養成に関する運営委員会」を設置し、全学的な組織によって教職課程が運営されている。本運営委員会の委員長は、文学部長が務め、運営委員会の下に設けられている、教職検討小委員会、教育実習委員会、教職授業編成小委員会、科目等履修生選考小委員会という四つの小委員会では、文学部教員が主要な役割を担っている。全学の方針を踏まえながら、文学部の特性を活かしたカリキュラムを編成し、文学部学生の特長を意識した教員養成教育がなされている。

（２）「教育実習指導教授」制度による文学部教員の教員養成教育への関与

中央大学文学部では、教育実習指導に関して、毎年、学部教員の約 3 分の 1 にあたる教員が、各専攻から「教育実習指導教授」として 30 名ほど選出され、教育実習の事前事後指導や訪問指導を担当している。このようなしくみによって、学部教員のほとんどが教員養成教育に関与し、教職課程についての基本的理解を促すことを可能にしている。開放制一般大学における教員養成教育において、学部のほとんどの教員が「教育実習指導教授」として教育実習指導等を行った経験を有し、専門ゼミの中で教職指導を行なうことまでも可能にしている、中央大学文学部の試みは特筆すべきである。

（３）全学教職事務室と文学部事務室の連携による学生指導

事務体制についても、全学の教員養成教育を統括する教職事務室を設置し、教職事務室と文学部事務室が連携し、学生指導を行う体制が構築されている。充実した教職課程のホームページの運営、『教職課程年報』の発行、各種ガイダンスの運営や履修指導、自主ゼミへの支援など、教職事務室の果たしている役割は大きく、全学の教職課程運営を支える教職事務室と、多くの教職履修者を抱える文学部事務室が連携しながら、丁寧な学生指導を実現していることは、中央大学文学部の教員養成教育の特色である。

中央大学文学部評価報告書
（http://www.u-gakugei.ac.jp/~jastepro/html/project/pdf/2015/rep-chuo.pdf）
中央大学文学部自己分析書
（http://www.u-gakugei.ac.jp/~jastepro/html/project/pdf/2015/ana-chuo.pdf）

３．東京学芸大学教育学部

（１）教職課程履修生への適切な支援と指導

教職課程履修生への支援と指導については、「教室」の指導教員による支援はもとより、「総合学生支援機構」（学生キャリア支援室、学芸カフェテリア、学生相談室、障がい学生支援室、保健管理センター、留学生センター、キャンパスライフ委員会・相談員、学生課・学生委員会、学務課から構成）を置くなど、適切なサポート体制が整備されている。さらに、メンタルヘルス支援委員会を置き「教育実習における学生のメンタルヘルス支援に関する方針」を策定するとともに、実習校に「教育実習サポーター」を派遣するなど、学生への手厚い支援体制には特筆すべきものがある。

（２）学校現場への理解と教育実習の充実

カリキュラムの中核に理論と実践の往還の実質化を図るべく学校現場と関わり学ぶ科目群を「教育実習関連科目」と位置づけ、必修科目、選択科目を４年間にわたり適切に配置し、取得する教員免許の特性に応じた実習プログラムも設定されている点が優れている。例えば、選択科目としては、学生個人が抱いている教職に対するイメージをより具体的かつ積極的に描出することを支援するため、２年次に附属学校で行う「観察実地研究」などを開設している。また、初年次の必修科目である「教職入門」では、講義と観察参加、討議の演習などを踏まえて専用のノート作成を行う取り組みがなされ、学生にもその意義が大いに評価されている点が特筆に値する。

（３）創造的な課題発見・課題解決を促す修学環境の充実

多くの専攻科目の授業は、少人数のゼミ・スタイルで行われておりアクティブ・ラーニングが日常的に成立する学習環境となっている。また、図書館のグループ学習室や調査・集団による学習に対応した学習スペースなど、多様な学生の学習室を確保している。この中で、図書館の学習スペースに、学生が学びたいこと・教えたいことの交流を掲示するスペースを設置している点などは、大学の先駆的な取り組みとして参考になる。さらに、学芸カフェテリアの Web システムと講座の開講、図書館の学習コーナーなど学生の自主的かつ集団による学習を支援する職員体制と設備の維持管理は特筆に値する。

東京学芸大学教育学部評価報告書
（http://www.u-gakugei.ac.jp/~jastepro/html/project/pdf/2015/rep-gakugei.pdf）
東京学芸大学教育学部自己分析書
（http://www.u-gakugei.ac.jp/~jastepro/html/project/pdf/2015/ana-gakugei.pdf）